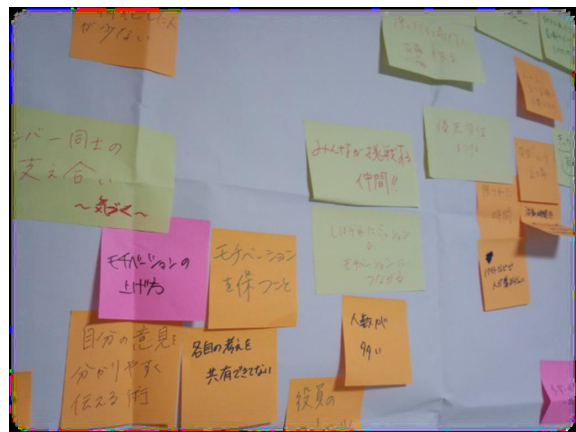


活動名	団体名	Port+ project
広島県の学生による、広島県の学生の“ポジティブな社会的影響力の向上”を目指したプロデュースプロジェクト	地域	広島県東広島市
	代表者	チーフ・プロジェクト・マネージャー 赤澤 直樹
	支援金額	40 万円
活動概要		
<p>【次世代リーダー育成】と【地域での様々な支え合い活動】が大きな柱である。若者のパワーが今まで以上に社会に伝わり、学生のポジティブな社会的影響力が向上するように、社会貢献活動を「行っている」ないしは「関心がある」学生のコミュニティをオンラインとオフラインの両面から、学生が主体となって構築する。コミュニティ内で情報やノウハウ・想いの共有が活発になることで、各自の活動のレベルアップが期待できる。同時に他セクターとの連携が進むようにすることで、地域での支え合いや学び合いがあらゆる面で可能になることも期待できる。</p> <p>広島県下で活動を行っている学生グループを集め、意見交換や組織化を目的とした「GatherinG シリーズ」を実施した。「GatherinG シリーズ」は通算3回実施した。この会では、活動していく中で感じている課題や難しさを共有したり、その解決策を模索したりするためワークショップを中心に構成した。またこの会には、すでに何かの分野で活躍されている方を特別ゲストとして招待し、それぞれの立場からお話をいただいた。しっかりした現状把握が重要と考え、派手な企画の前に市場調査も兼ねて、ワークショップを実施することとした。また、将来的な展開も考慮にいれ、ワークショップイベントに参加した人や協力していただいた方を中心にネットワーキングを行った。</p> <p>◆実施時期 2014年4月～2015年3月 広島県民文化センター、青少年センター</p> <p>◆参加人数 ワークショップイベント参加人数 1回 15人(学生11人、一般4人)、 2回 11人(学生10人、一般1人) 3回 12人(学生10人、一般2人)</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 38 名、ネットワーク参加人数:約50人</p>		



第1回 GG の開催風景
色々な世代、ジャンルの人たちが揃いました。



第1回 GG のポストイット 色々な考えが浮かんできました。アイデアがアイデアを呼ぶこともあります。



第2回 GG の開催風景 自己紹介のフェーズです。お互いを知ることから始まります。



第3回 GG の記録 もし自分が企業の従業員なら自分たちはどう見えるだろうか… みんなで考えました。

◆実施に伴う効果

世代とジャンルを広く設定し、参加してもらったことで、「いつもとは違った視点で考えられた」「参加した特別ゲスト(一般の方)に継続的にサポートしてもらえるようになった」など、会の内外で効果が得られたようだった。

◆苦勞した点

最も苦勞したことは、参加者の確保だった。企画の趣旨から、ただ参加者を増やすだけでなく、その参加者の活動のジャンルと世代が広いことが必要だった。その分、事前に参加してほしい人に個人的に連絡を取ったり、予定を調整したりといったことが苦勞した。

◆今後の課題・発展の方向性

もともと当企画は、「広島で頑張っている若者をアシストできる施策・事業はないか？」といった視点で立ち上がった。若い世代からの突き上げが、その上の世代の人たちの刺激にもなり良い影響を与えられるのではないかと考えたからだ。

当団体では、「世代」「ジャンル」「地域」の3つの変数を想定していた。この企画では「地域」を広島県に限定していたものの、「世代」と「ジャンル」を特に限定せずを実施した。これにより、より広い視点で意見交換ができたり、出会いがあったりといったメリットがあった一方、やはりワークショップのみでは、目に見える具体的な成果をあげられる事業やプロジェクトになりにくいという課題も感じた(意見交換のみで終わってしまい、何か具体的な形に繋がらなかった)。

しかし、この点が事実として確認できたことが大きな成果であったように思う。実際、ジャンルが違えば悩みや課題も違い、それに応じて必要な支援も変わってくる。つまり、「ほとんどの団体が困っていること」と「特定のジャンルの団体が困っていること」を分けて整理しなければ適切な支援(アシスト)事業はデザインできないと感じた。

また、もう一点重要な点として、若者の学生グループと大人のCSO(市民社会団体、NPO など)とでは、課題意識に関して言えば大きな差はないということも分かった。アプローチの仕方や問題意識がかなり似通っているので、学生グループは団体としての特徴は異なるものの一種のCSOと捉えることもできるのではないかと考えられた。これは、一般の方もワークショップに積極的に参加していただいたからこと気づけた点だと思う。

以上のような成果から、今後はまずは広島でジャンル(活動のテーマ)を絞った上で、若者を起点にして全体が充実していくように仕掛けていくことが今後の課題である。

そこで、まずは2015年が「被爆70年」「MDGs(ミレニアム開発目標)の目標達成年」であることから、国際貢献の分野で仕掛けていく方向で企画を進めている。この件は、助成期間中に実施したワークショップを通して蓄積した情報とネットワークを基に、学生 NGO L'harmonie1〜ラルモニー〜、広島 NGO ネットワーク(事務局:ひろしま NPO センター)、JICA 中国、広島平和文化センターなどとの連携のもと実施していく。

◆活動を終えての感想・意見等

前述のとおり、助成金だけでなく助成されたという事実にとっても支えられました。加えて、ぼんやりとしていた発展の方向性が今回の件を踏まえてより鮮明になり、この点はとても大きな成果だったと思います。

今回の助成をトリガーにして、支援いただいた以上の成果を、すべての関係者の方に届けていきたいと強く思っています。ありがとうございました。